

祈りのきずな 9月

マルコ3章～ルカ16章

新潟主の港教会（新潟）牧師 福久 織江（ふくひさ おりえ）

1日(火)マルコによる福音書3章4～6節

律法の本質を見失い、自分たちの論理で主を退けようとする姿勢。このファリサイ派の姿を、他人事にしてはいけません。都合の悪い指摘を遠ざけ、従うことをためらっているみ言葉はありませんか？ 主のみ心と静かに向き合い、自らを整えていく一カ月にしましょう。

東京第一教会と富田直美代表役員代務者、蓮香隆夫教会主事（東京・世田谷区）

2日(水)マルコによる福音書4章26～29節

茎も穂も実も、成長させてくださるのは神。でも私たちが何もしなくていい、というわけではありません。根は張りましょうよ、土が浅いなら広く、場所が狭いなら深く。主が実らせてくださる日を信じ、見えない部分での営みを疎かにせず、命のみ言葉という水源に向かって、今日も根を伸ばしていくのです。

大井教会と加藤誠主任牧師（東京・品川区）

3日(木)マタイによる福音書5章27～30節

主イエスが来られ、汚れが聖を汚す時代から、主の聖さが汚れを清める新しい時代へと逆転しました。主は既にこの世に勝利されています。その主の聖霊をいただき、その主のみ名の權威を委ねられた者として、主の聖さをこの世に広めていこうではありませんか。

品川教会と奥田悟牧師、岸本敬子音楽主事（東京・品川区）

4日(金)マルコによる福音書 6章48～52節

悪しき霊の支配下にあるこの世へと漕ぎだすと、足元から揺さぶられ、不安に負けて主を見失うのは当然。けれど主は「安心なさい、私だ!」と、揺れる舟に自ら乗り込んでくださるのです。荒波を鎮める主の権威を「体験」として経験し、証しできる私たちになっていくこと。それを主は求めておられるのです。

泉教会と城倉啓牧師、村上千代協力牧師（東京・世田谷区）

5日(土)マルコによる福音書 7章28～29節

神に対する謙遜とは、私なんて…と卑下し引き下がることではありません。主のみ力を信じて食い下がる、これが真の謙遜。主に向かって、求め、探し、叩き続ける、その執拗なまでの信頼を主は待っています。そうすれば、主は癒し以上のもの、つまり聖霊の満たしを豊かに与えてくださることでしょう。

恵泉教会と福永保昭牧師、松見享子協力牧師（東京・目黒区）

6日(日)マルコによる福音書 8章14～16節

少子高齢化を憂うあまり、命のパンなる主のご臨在を忘れていませんか。世の常識で不安を膨らませるのは「パン種」の仕業。若者がいない＝将来がない、ではありません。救いが起こり、弟子が成長するのが教会。主がなすみ業に目を開き、状況を超えて働く主をもう一度信頼していきましょう。

幡ヶ谷教会と山川眞司牧師、梶本欣久教育主事、高田ゆかり伝道主事（東京・渋谷区）

7日(月)マルコによる福音書 9章2～4、7節

主イエスの十字架での死は、この世的には敗北と弱さの極致。しかし主は、律法（モーセ）と預言（エリヤ）によって承認され真白に輝き、神の権威を帯び、贖いの業を成し遂げられたのです。この世的な敗北に心をくじけさせず、神の視座から物事の価値と意味を見出していく、これが 私たちが歩む信仰の道です。

渋谷教会と金末仙宣教師、林雄植伝道師（東京・渋谷区）

8日(火)マルコによる福音書10章15～16、35～45節

幼子のように素直にみ言葉が入らない…。世の道理や経験、悲しみや怒りで心が硬くなってはいませんか。でも、そんな私たちを憐れみ、目を開き、魂のレベルで癒しを与えてくださるのが主。ですから、「もっとはっきり見えるようにしてください」と願い求め、主へ近づいて行けばいいのです。

青梅あけぼの教会と大谷唯信^{おおたにただのぶ}牧師、森元國文^{くにくに}副牧師（東京・青梅市）

9日(水)マルコによる福音書11章15～16節

宮を清められた主は、今も私たちの教会を問うておられます。私たちは会堂の利便性を優先し、神の臨在への畏れを忘れた使い方をしてはいませんか。週報や託児室の整え方一つにも、私たちの主への愛と霊性が現れます。場を清く保つことは、主を礼拝する心の備え。主をお迎えするにふさわしく整えていきましょう。

ライフチャーチと大谷信道^{おおたにのぶみち}牧師（東京・三鷹市）

10日(木)マルコによる福音書12章43～44節

生活費全部をささげるなんて無理…。でも私たちは、什一献金という決断を通し、経済の主権を主のみ手に委ねるよう招かれています。つまり、天の窓を開き溢れるばかりに祝福を注ぐ（マラキ3・10）と約束してくださっている主への信頼を問われているのです。委ねるから祝福を受ける、この祝福の循環を選び取りましょう。

恵約宣教伝道所と藤原淳賀^{ふじわら あつよし}牧師（東京・渋谷区）

11日(金)マルコによる福音書13章7～8、21～22、34～35節

国際情勢の激変に、誰もが不安を覚える時代。でも大切なのは右往左往しないこと。いかなる「偽の救世主」にも心奪われないこと。主から命じられた大宣教命令を誠実に果たし、救いへと人びとを導くこと。門番のように目を覚まし、主の再臨を待つこと。それこそが、揺れ動く世で私たちが歩むべき道です。

東京西教会と黒瀬博協力牧師（東京）

12日(土)マルコによる福音書14章22～24節

主の晩餐式は、命のパンなる主イエスと、十字架で流された血による罪の清めと新しい契約を、改めて受け取り直す時。霊的な次元でも大きな物事が起こる時なのです。ですから、仕事や所用で忙しくても、主の晩餐のある主日礼拝は大切にしてください。そこには世では得られない命の回復があるからです。

板橋伝道所と新保雅雄牧師（東京・板橋区）

13日(日)マルコによる福音書15章33～34節

十字架で主が背負われたのは、私たちの罪に対する神の裁きと呪いのみならず、父なる神との断絶という究極の絶望でした。その苦悩の表れが「全地の暗闇」…。これは本来私たちが受けるべきものでした。主の痛みと父なる神の悲しみ（アモス8・10）を知るならば、いい加減な信仰生活など送れないのです。

関東ブレインズ教会とジョー・フレッチャー牧師と熊手祥之執事長（東京・羽村市）

14日(月)マルコによる福音書16章12節

主の十字架の死が私の罪のためと示され涙したあの日、復活の主に出会いました。そして主に従う人生へと方向転換し、そのみ業を経験する中で、私たちは今も生きておられる主に出会い続けています。死の淵に留まるのではなく、傷の残る手を差し出し、今も共に歩んでくださる主。そのお方と、今日という一日を歩むのです。

福音教会と稲見元彦牧師（東京・福生市）

15日(火)ルカによる福音書1章39～45節

主に従う決意をしても、不安や孤独に陥る。それは当然です。でも神は必ず助け手を与えてくださいます。それも、前もって準備し「仕込んで」おいてくださるのです。ただ、出会うタイミングを決めるのは神です。今、苦しみの中にある方、神の時を信頼して待ってください。助け手は既に備えられています。

昭島めぐみ教会と石橋虎之助牧師（東京・昭島市）

16日(水)ルカによる福音書 2 章25～26、36～38節

救い主を待ち続け、約束通り主に出会い晩年を終えるシメオンとアンナの姿には胸が熱くなります。私たちも再臨を待つ身ですが、既に聖霊を授かり主と共に歩む幸いの中にいます。この特権に喜び主を伝える者となるか、待ちくたびれる者となるか、どちらの姿で主を迎えますか？

八王子めじろ台教会と小河義伸牧師、原田攝生協力牧師（東京・八王子市）

17日(木)ルカによる福音書 3 章16～17節

「赦され、愛され、天国へ行けるから十分」。……私たちは安らぎだけを求めてしまうことはないでしょうか。しかし、主はそれ以上の命を私たちに備えておられます。教会の活力と、世にあって主を証しする力をいただきましょう。今こそ求めましょう、聖霊と火のバプテスマを。臆することなく、主の聖なる炎を乞い願うのです。

多摩みぎわ教会と石井規之牧師（東京・多摩市）

18日(金)ルカによる福音書 4 章8～12節

み言葉を宣言する。それは現場に神の真理をもたらす力です。私たちが主のみ名によってみ言葉を宣言する時、仕える霊である天使がそれに従って働き始めます（詩編103・20、ヘブル1・14）。私たちの戦いは血肉に対するものではありません。闇を打ち破る主のみ言葉を今こそ口に、戦い抜きましょう。

立川教会と文廷翼牧師、大川博之名誉牧師（東京・立川市）

19日(土)ルカによる福音書 5 章37～38節

聖霊の宿りを豆電球1個程度に思っていないですか？ 主の聖さは、古いままの自分では耐えられません。み言葉に従う訓練を怠れば、私たちは救われる前の「古い自分」へと引き寄せられてしまいます。花婿イエスにふさわしい新しい器であり続けるために、自分を主に明け渡し今日も整えていただきましょう。

花小金井教会と藤井秀一牧師、中根浄牧会スタッフ（東京・小平市）

20日(日)ルカによる福音書 6章35～36節

主の教えは不可能のように聞こえます。でもそれは、私たちがこの世のルールに縛られてしまっているからです。クリスチャンとなった恵みは、この世にあって神の国のルールで生き、復活の主に倣う者となれること。主のルールに従うなら、この世が荒れ狂おうと神の目に適う実を必ず残していけるのです。

府中教会と長尾なつみ牧師（東京・府中市）

21日(月)ルカによる福音書 7章33～35節

救われても尚、肉をまとっている限り罪の力から完全に自由になれません。ゆえに私たちは未だに自分の思いと考えが判断基準になりがちで、とくに、目に見える物事に振り回されやすくなります。だからこそ聖書に向き合うのです。み言葉に耳を澄ませるなら、この世から自由にされ、主の真理で満たされていきます。

調布教会と岡田千尋牧師（東京・調布市）

22日(火)ルカによる福音書 8章32～33節

2000頭の豚にローマ軍の影を読み込むことができます。しかし霊的な戦いの現場である教会で、悪霊の存在を否定してはいけません。主は私たちに、悪霊を追い出し人を癒す権威を授けられたのですから。鳩のように素直に、かつ蛇のように賢く、み言葉を実践していく知恵を主に求めていくことが重要です。

調布南教会と前田重雄牧師（東京・調布市）

23日(水)ルカによる福音書 9章57～62節

常時戦闘態勢では疲れてしまいます。大切なのは、主の招きに即座に応えられるよう「準備の部屋」に座しておくこと。自分の歩みを止める言い訳が何であるか、自分が一番知っているはずです。それを前もって処理し、身軽にし、主を待つ。それが、後を振り返らずに神の国を目指す大人のクリスチャンです。

仙川教会と山岸明牧師、井馬佐紀子副牧師、マウマウイン宣教師（東京・三鷹市）

24日(木)ルカによる福音書10章39節

中東文化で男性の足元に座することは、妻だけに許された特権でした。マリアがそこに座ったのは、イエスを人生の主とする「関係性の宣言」だったのです。イエスを主として選んだなら、今何をすべきかは、おのずと示されるのです。判断に迷う時こそ、主の足元に座し、み言葉を求めていきましょう。

三鷹教会と秋山献一牧師（東京・三鷹市）

25日(金)ルカによる福音書11章34～35節

「自分の目が輝いているか調べなさい」。人のことはよく分かるのに、自分のことは鏡を見ても、あまりよくわからない…。でもポイントは明確です。聖霊の光が消えていないか、つまり「主にある喜び」が今あるか。悔い改めていない隠しごとや暗い所はないか、です。み言葉の前で、自己チェックしてみましょう。

中野教会と坂元俊郎牧師、坂元幸子協力牧師（東京・中野区）

26日(土)ルカによる福音書12章18～19節

老後の貯蓄が愚かなものではありません。「『私の』倉」「『私の』穀物」「『私の』財産」「『私の』魂よ、何年先も生きて楽しめ」。この言葉に現れる神不在の生き方が問題なのです。貯金を「神に代わる安全保障(偶像)」にせず、命の主権が神にあることを覚えつつ、神の前に豊かな生き方を共に歩んでいきましょう。

インドネシア伝道と野口日宇満宣教師のために

27日(日)ルカによる福音書13章24～27節

救いはすべての人に開かれています。しかし、主を見出すことが「狭き門」である事実には変わりはありません。伝道の難しさから福音を水で薄め、広い門に見せたい誘惑に負けず、自分の信仰に甘えを持たず、主のみ教えをこの世に向かって高く掲げ続けましょう。真理の門は妥協の中にはないからです。

国際ミッション・ボランティアのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

28日(月)ルカによる福音書14章12～14節

見返りを期待する親切は愛ではなく「投資」。人からの賞賛や報いを目的にすると、天の報酬は失われます。これが神の国のルールです。大切なのは、動機は何か、です。主は心をご覧になるからです。目先の損得ではなく、復活の時に神から受ける「幸い」を求め、天に宝を積むギアに切り替えましょう。
シンガポール国際日本語教会(IJCS)のために

29日(火)ルカによる福音書15章20節

放蕩息子の行為は、村の共同体では死に値する背信でした。^{あた}父が遠くに^{あやま}いる次男に走り寄ったのは、息子が村人に裁かれる前に、自らの体で守り抜くため。主は悔い改める者を命懸けの愛で守り迎えてくださるのです。先に救われた兄である私たちは、新しい家族の誕生を共に泣いて喜ぶ者でいましょう。
アジアバプテスト女性連合(ABWU)のために

30日(水)ルカによる福音書16章9節

自分のために富を溜め込むのは神への「不忠実」です。富との向き合い方に過ちがあっても、悔い改めて今日から隣人のために大胆に用い、「天の友」を作る投資に変えるなら、主はそれを「忠実」と評価してください。自分のためか、ラザロ(20節)のためか。神のみ心を優先する、その決断が今、問われています。
ウムチヨ・ニャンザ(ルワンダ)のために

B ■ W ■ A ■ W ■ 世 ■ 界 ■ 祈 ■ 祷 ■ 日

(世界バプテスト連盟女性部)

11/2
(月)

それぞれの場所・教会で世界中の祈りの課題をおぼえてお祈りください。加盟女性会にプログラム冊子をお送りします。